

改訂

## 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

|       |                                                                                                                                      |     |              |       |                             |      |          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------|-------|-----------------------------|------|----------|
| 科目No. | 151                                                                                                                                  | 科目名 | 化学物質総合評価学概論2 | サブネーム | 化学物質リスク評価の基礎2               |      |          |
| 連携機関  | 化学物質評価研究機構                                                                                                                           | レベル | 基礎           | 講義日時  | 土曜日 14:00～15:30、15:50～17:20 | 講義場所 | お茶の水女子大学 |
| 科目概要  | 化学物質及び化学物質を含む製品について、その生産、輸送、利用及び廃棄に至るまでの過程におけるリスク評価手法の全般を理解することを目的とし、ヒトの健康に対する化学物質の有害性を確認するための手法の概要を解説する。(科目No.101化学物質総合評価学概論1からの続き) |     |              |       |                             |      |          |

| サブタイトル     | No. | 講義名               | 講 義 概 要                                                                                                            | 講義日    | 教室                      | 講師名  | 所属         |
|------------|-----|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------|------|------------|
| 人の健康への影響評価 | 1   | 公衆衛生学概論           | 職域における健康障害とその予防について解説する。<br>水及び空気の衛生等の環境衛生を解説する。                                                                   | 9月27日  | 共通講義棟<br>1号館301号室       | 石井聡子 | 化学物質評価研究機構 |
|            | 2   | 疫学概論              | 疫学の三要素(時間、場所、ヒト)について解説する。<br>具体的な例(カネミ油症等)により、疫学調査の概要を解説する。<br>リスク評価における疫学の位置づけを解説する。                              |        |                         | 高月峰夫 |            |
|            | 3   | 皮膚・眼刺激性試験         | 各種試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。試験結果が労働者のリスク管理や作業環境を整備するための基礎データとして、また化粧品などのリスクを評価するための基礎データに利用されていることを解説する。            | 10月4日  | 共通講義棟<br>3号館105号室       | 石井聡子 |            |
|            | 4   | 免疫毒性試験            | 各種試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。試験結果が労働者のリスク管理や作業環境を整備するための基礎データとして利用されていることを説明するとともに、シックハウス問題等の社会的問題と免疫毒性との関連について解説する。 |        |                         |      |            |
|            | 5   | 一般毒性試験(1)         | 試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。                                                                                          | 10月11日 |                         | 山崎寛治 |            |
|            | 6   | 一般毒性試験(2)         | 試験結果が化学物質のリスク評価における許容摂取量の推定等に利用されることを解説する。                                                                         |        |                         |      |            |
|            | 7   | 神経発生毒性試験          | 試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。                                                                                          | 10月18日 | 共通講義棟<br>1号館301号室       |      |            |
|            | 8   | 生殖発生毒性毒性試験        | 試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。                                                                                          |        |                         |      |            |
|            | 9   | 遺伝毒性試験(1)         | 試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。                                                                                          | 11月1日  |                         | 菊野 秩 |            |
|            | 10  | 遺伝毒性試験(2)         | 遺伝毒性試験の抱える課題と発がん性リスク評価との関係について解説する。                                                                                |        |                         |      |            |
|            | 11  | 発がん性試験(1)         | 発がんメカニズムと発がん性評価における国際機関の活動概要を解説する。                                                                                 | 11月15日 | 共通講義棟<br>3号館202号室       | 山崎寛治 |            |
|            | 12  | 発がん性試験(2)         | 試験方法の概要及び結果の評価方法について解説するとともに、新規発がん性予測手法について解説する。                                                                   |        |                         |      |            |
|            | 13  | 体内動態試験            | 化学物質の毒性を理解する上で、体内動態を明らかにすることが重要であることを理解する。吸収(absorption)、分布(distribution)、代謝(metabolism)、排泄(excretion)の一連の流れを解説する。 | 11月22日 | 共通講義棟<br>1号館301号室       | 高月峰夫 |            |
|            | 14  | 新たな試験方法について       | 遺伝子レベルでの毒性予測であるトキシコゲノミクスやタンパク質発現レベルでの毒性予測として利用されつつあるプロテオミクス等の最近動向について紹介する。                                         |        |                         |      |            |
|            | 15  | 毒性試験法ガイドラインとGLP基準 | 試験の均一性を目指して試験法ガイドラインが設定されていることを解説する。<br>試験結果の信頼性を保証するための優良試験書基準(GLP)について解説する。                                      | 11月29日 | 人間文化創成科学研究科全学共用研究棟607号室 |      |            |

2008/5/7 講義No.5,6及び講義No.9～15の講師の変更。 2008/7/29 教室の記載。 2008/9/11講義No.7,8の講師変更。